

一名センニチガヒ江州ケイセイポテ、同上漢名紅蓮八通志ト云フ、又腹下ノヒレ黒色ナルモノヲ、クロタビラ京ト云、又全身黄色ヲ帶ルモノヲキタビラト云、一名シブヒラ、漢名黃鯪大倉州志ト云、一名金色鯪同上、又ウミタナゴハ海中ニ生ズ、形棘鬣魚ニ似テ小ク、頭小ク身扁色白、長サ四五寸ヨリ尺ニ近キモノアリ、胎生ナリ、漢名海鯪閩書ト云フ、

〔食物和歌本草三〕種魚

たなごこそ懐妊の藥朝夕に食して其子難産もなし

〔運歩色葉集 魚名〕鱈

〔多識篇四〕鱈魚、和名惠曾、

〔庖厨備用倭名本草魚〕鱈魚略○中 考本草夏ノ初時ニアリ、其形秀テ扁ニ少シ、魴ニ似テ長シ、白

色銀ノ如シ、略○中 元升向井曰、此説ヲミレバエソニハ非ズ、エソハ形圓ク、イセゴヒノナリアヒ

ニ似タリ、色ヤ、白ケレドモ、銀ノ如キニアラズ、

〔書言字考節用集 氣形〕鱈草 鱈同

〔大上薦御名之事〕女房ことば

一ゑそ こんもじ、えらなみとも、

〔物類稱呼二動物〕惠曾ゑそ 伊勢の白子にてた。このぶちと云、土佐國の土人をばあといふ、漁人

のいはく、ゑそは蛇の化したるもの也と、又九州にてをかまがへるの化したる物也ともいへり、

畿内にて五月の頃水ゑそとよびて賞ス、或人云、ゑそうなぎの二品酢と合して食すれば、人を害

すといふ、今按に土佐の國の俗、この魚をおばあといふ、是は蛇の姨あはといふこゝろなるべし、

〔本朝食鑑八 江海有鱈〕惠曾魚訓如字、名義不詳

集解、形色如蝮、鱗硬鬣短背之鱗下有碧線紋二三條、味不佳而腥膩多矣、